

師走の夜のゆんたく会

12/2 エコツアーセンター

12/3 離島総合センター

we support!



復興支援
かわらばん

すけやき

しんぶん

大雪朔日



「東北に黒糖を送ろう! 大作戦しんぶん」改め

開催いたしました



「西表島で東日本震災を考える」と題して
現地ボランティア活動体験者2名を
ゲストに迎えてのゆんたく会(お茶とお菓子つき)
行事の重なるシーズンではありましたが
少人数ながら中身の濃い、全員参加型のゆんたくが
繰り広げられました

沖縄県の支援団に加わり、岩手県大船渡市で
保健師チームで支援活動をしてきた坂内由紀さん
4月という比較的早い時期に現地に入り
医療の必要な人を「医療につなぐ」ために
津波被害を免れた個人宅を一軒ずつ訪ねました

↑
話を聞きながら
やがて自分の地域の
防災の取り組みについて
情報交換が始まり
座はじわじわと盛り上がる



お二人の感想に共通して
いたのが「チームだった
からやり遂げられた」
実際に作業する場での
チームワークだけでなく
先発隊からの申し送りや
後から来る仲間への引き継ぎなど、「時間」で
つながることの重要さが感じられました。
知恵の蓄積はもちろんですが、自分一人が
がんばりすぎて『結局あれもこれもできなかった』
と落ち込んだりしないためにも、意識的に
「次につなげる」ということを心がければ、より
多くの人々の力で継続的に支援していくことが
できます。
日本中のたくさんの仲間と手を携えて、みんな
の力で進んでいく喜びが伝わってきました。
ありがとうございました!



おなじみ RQ の唐桑 VC リピーターの余語晶子ねえさん
ニーズの聞き取りや「傾聴」など、ガテン系だけではなく
ボランティアのさまざまな活動についてのリアルな報告
(ウラ話?) を聞かせてくれました

復興のニュースの陰で「忘れられてしまう
ことが辛い」という声が聞かれます。
エコツーリズム協会では、遠い離島でできる
支援のひとつとして「忘れない」ことを重視し、
また住民どうして防災意識を高め
「自助・共助」の力をつけていくためにも、
「ゆんたく会」を継続的に開催しようと計画
しています。皆様ふるってご参加ください!

